

日々の祈り

2021年10月11日(月)～16日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・神学校で学ぶ神学生たちの歩みの上に、豊かな祝福と導きがあるように。
- ・今もなおコロナ禍にあって病と闘っている人々、悲しみや困難の中にある人々に、主の守りと平安があるように。
- ・宮崎中部教会に連なる一人一人の信仰生活が守られるように。

11日(月)

ルカによる福音書 18章 26～27節

これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われるのだろうか」と言うと、イエスは、「人間にはできないことも、神にはできる」と言われた。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。救いを与えることがお出来になるのは、ただ神さまお一人だけです。そして、わたしたちはその救いを素直に受け取ることさえ困難なほどに、疑い深く、頑なで、深刻な罪に捕らわれています。しかし、神さまはわたしたちを変えることがお出来になります。信仰を与えることがお出来になります。死んだ者を甦らせ、罪人を神の子にし、わたしたちに愛する心を与えることがお出来になります。「神にはできる。」神は、あなたをそうすることがお出来になる。それが、わたしたちの唯一の拠り所です。

12日(火)

エフェソの信徒への手紙 2章 8節

事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

わたしたちは、恵みによって救われました。わたしたちは、信仰によって救われました。救いは決して、わたしたちの善い行いや、功績や、反省によって得られたものではありません。わたしたちには何の力もなかったのです。わたしたちが救われたのは、神さまがただ恵みと信仰を与えて下さったからです。わたしたちはただ、「神の賜物」をいただいたのです。わたしたちはひたすら感謝し、賛美し、喜ぶしかありません。

13日(水)

フィリピの信徒への手紙 3章7~8節

しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています。

パウロは、「有利であったこれらのこと」、つまり自分の持っている特権や、知識や、熱心さが、キリストのゆえに損失となった、と言っています。彼はキリストを信じ、伝道者となり、すべてを失いました。しかし、失ったものは塵あくたと見なしている、と語ります。それは、「主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさ」を知ったからです。救いの恵みは、パウロをすっかり変えてしまいました。価値観もひっくり返してしまいました。神さまの恵みは、そのすばらしさは、頑なな私たちをそれ程に変えてしまう力があるのです。

14日(木)

イザヤ書 53章 12節

それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし／彼は戦利品としておびただしい人を受ける。彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人を過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。

旧約聖書の預言であり、「苦難の僕」と呼ばれている部分です。ここには、一人の人の苦しみによって、多くの人がある過ちを担われ、罪を執り成され、取り戻されることが預言されています。この苦難の僕とは、神の御子イエス・キリストでした。そして既にこのことは、歴史の中に実現し、わたしたちに与えられている真実です。

15日(金)

詩編 22編 2節

わたしの神よ、わたしの神よ／なぜわたしをお見捨てになるのか。なぜわたしを遠く離れ、救おうとせず／呻きも言葉も聞いてくださらないのか。

次の主日礼拝の御言葉です。この絶望の叫びを、イエスさまは十字架の上で叫ばれました。神さまから遠く離れること。それは、まことの死であり、滅びです。最も悲惨で、最も絶望的な叫び。これを神の御子イエスさまは御自分の叫びとして叫ばれました。イエスさまはそうして、人間の罪と、絶望と、滅びの只中にまで来て下さり、そこで苦しみ叫ぶ者と共に叫んで下さり、自らの血によって、罪人であるわたしたちが神さまの御許に行くための赦しの道を拓いて下さったのです。

16日(土)

ルカによる福音書 18章 31節

イエスは、十二人を呼び寄せて言われた。「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子について預言者が書いたことはみな実現する。」

明日の主日礼拝の御言葉です。「預言者が書いたこと」とは、今の旧約聖書に記されていること、神の民に神さまが預言者を通して語られたことです。それは、地上のすべての民を祝福する約束であり、すべての人の罪を赦す、愛と憐れみのご計画であり、それが神さまに遣わされるメシアによって実現するという約束です。このメシアこそ、わたしたちに世に来て下さったイエス・キリストであり、救いの御業はこの方の十字架の死と復活によって成し遂げられたのです。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』